

培われたきずな いつまでも大切に…



昨年7月に行われた子ども会交流会の様子

平賀町と友好親善都市を終結 16年間の交流に幕を閉じる

青森県平賀町(現・平川市)と本町は今年十月三十一日をもって、両町の間で結んでいた友好親善都市を発展的に終結しました。

今年一月一日に平賀町が隣の尾上町、碓ヶ関村と合併

して平川市となったことから、同市と本町は合併後の友好親善都市の在り方について協議を重ねてきました。その結果、これまで培われた人とのつながりや交流が末永く続くことを願いつつ、発展的に終結することを確

認。両市町間で終結の確認書を取り交わし、十六年間の交流に幕を閉じました。

平賀町と本町は平成二年八月二日に子ども会交流が発端となり結ばれ、地勢や産業形態の異なる特性を生かし、教育、文化をはじめとする各分野で心の交流と経済的交流を深めてきました。自治体としての交流は終結しましたが、これまで築いてきた友好のきずなを大切に、今後も民間レベルでの交流が続いていくことに期待します。



プレゼントされた線香花火や手持ち花火で日本の風物詩を堪能



歓迎交流会では、訪問団からホストファミリーの皆さんに感謝の花が贈られました



帰国の朝には大勢の人が見送りに詰め掛け、いつまでも別れを惜しんでいました



ホストファミリー
遠藤 龍也さん
(山田・40歳)

素直な子ばかりで とても楽しかった

初めてホストファミリーというものを務めることになり、言葉が通じないのにどうやって接したらよいのだろうと、不安でいっぱいでした。しかし、いざホームステイが始まってみると、みんな素直でいい子たちばかりだったので、とても楽しく毎日をごすごすごことができました。家にはテイシ君がホームステイしていましたが、夜しか会えなかったのが、あっという間に時間が過ぎていったように思えます。始まる前はあれだけ不安だったホームステイが、もっと時間があればいろんなことを教えてあげられたのにとさえ感じました。ホストファミリーを引き受けて、とても良い経験になったと思います。

温かい歓迎に感謝 また山田にきたい



CLZ訪問団
テイシ・アルダスくん

今年1月に山田町の生徒たちがザイストに滞在してから、長い長い月日が経っていたので、こんなにも温かく歓迎されるとは思っていませんでした。山田中学校に行ったときも、中学校のみんなは僕たちを温かく迎え入れてくれました。生徒の皆さんは、名前を呼んで手を振ってくれたり、サインや写真をお願いされたりしたのでちょっとびっくりしたけど、うれしかったです。

学校の雰囲気は信じられないほど楽しくて、自分たちの学校よりも山田の中学校の方が気に入ったくらいです。山田を離れるのは、とても辛く感じます。またすぐにでも山田町に戻って来れるように、心から願っています。山田の皆さんからもらった、たくさんの親切と素晴らしいプレゼント、本当にありがとうございました。



豊間根中学校での授業体験で習字に挑戦



オランダ島でザイスト市から贈られたプレゼントを見学する訪問団



「オランダのタベ」ではオランダの歌などを披露し、会場から大きな拍手が送られていました



クラブ活動にも参加し、茶道を体験しました

かれ、本町の中学生やホストファミリー、日蘭交流友の会会員など百五十人が参加しました。訪問団の皆さんは自己紹介とオランダでの学校生活の様子などをビデオで紹介した後、オランダの歌を披露。また「若手山田旅情」をオランダ語と日本語の二カ国語で歌い、参加者から大きな拍手が送られていました。続いて参加者を交えてゲームが行われ、ツイスターやいす取りゲームなどで盛り上がりました。

十八日にはオランダ島へ渡り、記念碑や島内の様子を見学。訪問団の皆さんは島から見える湾内の風景を見ながら、本町との交流のきっかけとなった三百六十年前の出来事に思いを巡らせている様子でした。

二十日には送別会を兼ねた歓迎交流会が開かれ、ホストファミリーや日蘭交流友の会、十七年度のジュニア海外使節団のメンバーなど七十人が出席。ジュニア海外使節団の生徒たちによるロックソランが披露された後、参加者全員で「若手山田旅情」を日本語で熱唱。続いて花火体験やホストファミリーに感謝の花を贈るなど、参加者は言葉や文化の壁を乗り越えた交流を心行くまで楽しみなが滞在最後の夜を満喫し、翌朝帰国の途につきました。